



野庭すずかけ小だより

12月号

横浜市立野庭すずかけ小学校

2019(令和元)年11月30日

TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nobasuzukake/>

「自然の中で得るもの」

校長

この学校だよりがみなさんのところに届くころには、「野庭すずかけフェスタ」を終え、子どもたち、そして教職員もほっとしていると思います。今年の野庭すずかけフェスタはいかがだったでしょうか。

11月は1・2年生の遠足や3年生の区の音楽会、6年生の市体育大会や劇団四季の観劇など多くの行事があり、私もいくつかの行事の引率をしました。

その一つ、2年生の久良岐公園遠足に、野庭すずかけ小学校に勤務して初めて引率をしました。到着してすぐにウォークラリーをしました。子どもたちは公園の自然の中からウォークラリーのミッションである「生き物」や「色」「鳴き声」などを探しました。池の周りでじっと目を凝らす子どもたち。「あっ。いたっ。アメンボだ。」とうれしそうです。「白黒の鳥」も見つけました。「わあっ。水たまりふんじやった。」「おおい。こっちこっち。」といろいろな声が聞こえます。秋が深まり、色づき始めた木の葉の「黄色」や「赤」に気付く子もいました。



楽しみにしていたお弁当とおやつを食べ、次は「ターザンロープ」がある場所に移動しました。そこにはすすきによく似た、子どもの背丈ほどある背の高い草が生い茂る原っぱがありました。子どもたちはまるでプールの中に入っていくように、この「草のプール」に飛び込んでいきました。あちらこちらから聞こえる子どもたちの歓声。子どもたちにとって、草の中で遊ぶのは初めての経験だったのではないのでしょうか。しばらくして、誰かが「ねえ、かくれんぼしようよ。」と大きな声でさげびました。しゃがむと鬼からはみつきりません。そっと隠れる子どもたちの顔は笑顔でいっぱいでした。

子どもたちは、スマートフォンやタブレットなどのゲームに夢中になります。大人でさえ夢中になってしまうほど、計算されつくしてプログラミングされているのですから、無理もありません。ゲームから流れるのは人工の音や色です。しかし、子どもたちは公園の「池」だって「草のプール」だって夢中になって遊びます。その子どもたちを包むのは、虫や鳥の声、木々のざわめきなどの音。紅葉が始まった木々の葉の赤や黄色。草や花の香り。夏と違う水の冷たさや吹く風の心地よさなどです。意識していなくても、それらは子どもの豊かな体験として蓄積されていきます。自然の中で遊ぶことで、様々な「感覚」が育っていきます。

5月に始まった「令和元年」があとひと月で終わります。文明はますます発達し、AI（人工知能）が日々、進歩しています。近い将来には屋外に出なくても、人が作り出した色や音、におい、触った感覚、味などで、「自然」を疑似的に感じるができるようになるかもしれません。それはすごいことです。しかし、今回、公園で遊ぶ子どもたちの姿を見て、豊かな自然を未来まで残すこと、そして、子どもたちが本当の自然に触れる機会を増やすことも、大切な大人の「使命」であると感じました。自然の中で子どもたちが得るものは、AIには算出できないとても貴重なものなのではないでしょうか。

